平成23年度第2回大阪府文化振興会議　議事概要

◆日時：平成23年9月22日（木曜日）午前10時～12時

◆場所：さいかくホール（大阪府庁新別館北館1階）

◆議題：大阪文化振興新戦略にかかる事業の検証・評価について

【資料説明（事務局）】

【意見交換】

おおさかカンヴァス推進事業について：

＜委員＞

公共空間での展示には、安全管理面や、市の許認可など課題への対応が必要。

本事業には色々な側面があり、さらなる展開が期待できる。来場者だけではない別の評価軸も必要。

＜委員＞

長期的にもっと進めていくべき。ウォールペイントは、北加賀屋、木津川など点在ではなく、作品をつなげていってスポットを当てるなど効果的に発信すれば、まちづくりにも活かせる。

＜委員＞

緊急雇用の就労者の副次的効果など、二次評価の表現にはもっと意見があるように思う。評価の中に具体的な事例も入れてはどうか。

＜委員＞

評価の方法については、前回の委員会で検討を行ったもの。

府庁本館活用事業について：

＜委員＞

あそこで何をやるのが一番魅力的なのか。単に楽しければいいというものではなく、まちづくりとのつながりなど、きちんとプロデュースしていくことが重要。

＜委員＞

周辺部がどうなっていくかを含めて、府庁本館がいかにすばらしいかをアピールしていくべき。

＜委員＞

有料貸出しを考えてもいいのではないか。映画のロケーションに活用するのも面白い。

江之子島アートセンター（仮称）構想について：

＜委員＞

評価シートの中には具体的なものは何も書かれていない。運営事業者を公募する仕様書の中味など、具体的にどんな展開をしていくのかは重要な話。

＜事務局＞

今後、条例などで具体化を検討していく。

＜委員＞

今の段階での評価対象というよりは、次の戦略を作る段階で大変重要な検討テーマになってくる。

大阪ミュージアム構想の推進について：

＜委員＞

現地視察は初めての試みで、非常によかった。ペーパー上の議論とは全然違う。今後も継続してほしい。現場で議論の場を設けてもらって、その場で事業評価をしてもいい。現地での感想を活き活きと再現できる。

＜委員＞

大阪市内に偏らず、府内に重点を置いた姿勢は評価できる。ただ、施策間の横のつながりがはっきりしないので評価しにくいところがある。

＜事務局＞

今年は、おおさかカンヴァス推進事業が「水都大阪フェス2011」とイベントミックスして、大阪ミュージアム構想の事業と連携していく。

＜委員＞

水平方向のつながりとともに、垂直方向、つまり時間軸に沿って「全体が何年後にはこうなる」という絵姿を描くことも大事。

＜委員＞

バラバラであった施策を横串しにしたのが大阪ミュージアム構想。よく連携できているというのが実感。

＜委員＞

横串の意義をどうアピールするかが難しい。そのスキルが乏しい。何かいい方法はないか。

＜委員＞

石畳が何を産み出していったのか、整備にとどまらず広がりをうまく表現できれば、評価につながる。

＜委員＞

石畳の街づくりは大変よかった。よかったと分かった以上、施策の当否はもはや議論の必要はない。施策を支持し、これを広げる方向を良しとして、どう広げるかを評価軸にすべき。たとえば「石畳」を「坂道」に広げるといった具合。

＜委員＞

大阪ミュージアム構想は全国的に見ても画期的、挑戦的な枠組み。もっと全国に発信すべき。

上方演芸資料館における演芸資料の収集・保存・展示について：

＜委員＞

難しい問題。この場で直ちに整理するのは困難。

＜委員＞

当面は、22年度事業の評価まで。

アートを活かした障がい者の就労支援事業、障がい者芸術文化促進事業について：

＜委員＞

作業としての就労支援だけではなく、他者から認められる、自己実現に結びつけることが大事。江之子島アートセンターの支援に重ねていくべき。

＜委員＞

障がい者だけの作品展ではなく、一般の人たちと同じ土俵に上げて、現代アートとして評価すべき。

―　以上　―